

69 期 1 学年 江風探究ユニット⑤（論文作成）について（手引き）

- 1 探究テーマ：「新潟市の取組（5テーマ）から行った探究活動を、論文にまとめよう」
- 2 目的：「新潟市の取組（5テーマ）」※から課題を発見し、仮説の設定から実証・検証に至るまでの一連の探究活動（江風探究ユニット③）を、論文にまとめることによって、2年次の課題研究にもつながるような表現力と思考力を養う。 ※新潟市の取組（1人口流出抑制に向けた取組、2超高齢社会への対応、3農業・食文化の発展に向けた取組、4持続可能な公共交通の構築、5外国人旅行者獲得に向けた取組）
- 3 日程：1月8日（水）7限LHR 事前指導
 1月8日（水）～3月15日（日） 各自で論文の作成
 3月16日（月）SHR 論文の提出期限
- 4 方法：1月8日に、論文の手引きと原稿を配付する。③のワークシートとこの手引きに従って、3月16日までに論文を作成する。なお参考資料を別に添付することとする。
- 5 論文の構成：①表紙（タイトル、班・学年・組・氏名）
 ②序論（研究背景・研究目的・研究意義）
 ③研究手法
 ④結果・考察
 ⑤結論・展望
 ⑥引用文献・参考文献
 ⑦付録

①表紙 （タイトル、 班・学年・ 組・氏名）	<p>タイトルは、次の点に留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何の研究を行ったかが分かり、かつ興味を引くものにする。 ・どのような着眼点で研究を行ったのかが分かるものにする。 ・同じ分野の他の論文との違いを際立たせる。 ・補足情報はサブタイトルにする。
②序論 （研究背景、 リサーチクエ スション、仮 説、意義な ど）	<p>序論では、次の点に留意して、研究背景、研究目的、研究意義を、簡潔にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究背景は、自分が選択した研究テーマとその現状について説明する。初見者にも研究内容が分かるよう、必要な知識を紹介する。また、その研究テーマから、どのようなリサーチクエスションを立てたのか、説明する。 ・可能であれば、先行研究や過去の取組から、解明・解決の内容と、未解明・未解決の内容を明らかにする。 ・研究に取り組むことでどのような貢献が想定されるか、研究意義について述べる。 ・リサーチクエスションに対して、どのような仮説を立てたのか、説明する。また、その根拠も示す。 ・その仮説を、どういう立場や着眼点で実証するのか、簡単に示す。
③研究手法	<p>研究手法を書く意義は2つある。1つ目は、行った研究手法の妥当性を示すためだ。2つ目は、読者が研究を再現できるようにするためである。後輩が研究を受け継ぐことも考えられる。そのためにも手法を明記する。次の点に留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査、実験で何を得たいか明らかにすることで、研究の目標を具体的に示す。 ・どのような手順で調査、実験を進めたのか詳細に示す。

④結果・考察	<p>得られた研究結果と、それをもとにした考察を示す。</p> <p>【結果に示す内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分かりやすい形でまとめたデータ ・ 個々の結果の説明 ・ 個々の結果の要約（例「要するに〇〇ということだ」） <p>【考察に示す内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 結果に含まれる事実 ・ 次の研究につながる問い ・ 結論を導く（詳しい説明は次の「⑤結論・展望」で行う） <p>例</p> <p>〔考察１〕 結果１→ 言えることは何か → 新たな問い → 推測 → 新たな問い……</p> <p>〔考察２〕 結果２と４→ 言えることは何か → 新たな問い → 推測 → 新たな問い……</p> <p>〔考察３〕 結果３→ 言えることは何か → 新たな問い → 推測 → 新たな問い……</p> <p>〔考察４〕 結果５→ 言えることは何か → 新たな問い → 推測 → 新たな問い……</p> <p>〔考察５〕 結果６と７→ 言えることは何か → 新たな問い → 推測 → 新たな問い……</p>
⑤結論・展望	<p>・ 結論はリサーチクエスションへの答えを示すまとめの部分である。</p> <p>例 〔考察１〕・〔考察２〕によって、〇〇ことが分かった。……根拠①</p> <p>〔考察３〕・〔考察４〕によって、〇〇ことが分かった。……根拠②</p> <p>〔考察５〕によって、〇〇ことが分かった。……根拠③</p> <p style="text-align: center;">▽</p> <p>〔結論〕「これら３つの根拠（①～③）から、高い可能性で次のような結論を導くことができる。その結論とは、〇〇ということだ。よって、私たち〇班が設定した仮説は……」</p> <p>・ 展望は、この研究結果によって、今後どのような展開があるかを記す部分である。考察の中で立てた新たな問いから、新たな研究が考えられる場合は、それを示す。</p>
⑥引用文献 参考文献	<p>書き方は次の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インターネット：作成者（公開年）、「Web ページのタイトル」、URL、情報を確認した日 ・ 書 籍：著者（発行年）、『書名』、出版社、利用したページ ・ 新 聞：新聞名（掲載年）、「記事のタイトル」、地域掲載日
⑦付録	<p>本章で書ききれなかった補足内容があればここに示す。図表や印刷した参考資料等があればここに添付してもよい。</p>

6 備 考：

- ・ 論文にまとめる際には、グループ学習で行ってきた内容（ワークシートやポスターの内容）だけでなく、自分独自の新たな内容を盛り込むようにする。自分独自の観点、自分が新たに書籍等で調べたこと、自分独自の考察などを、付け加える努力をする。
- ・ 今回の研究内容および研究手法が、２年次の課題研究につながっているので、２年次の課題研究も見据えて、論文作成を行う。
- ・ ３月１８日（水）に２学年のSSH成果発表会がある。